

体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

文部科学省
地(知)の拠点



日本文理大学COC事業

おあいた、つくりびと

coc-nbu.jp

March 2017 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

楽しく広場「ひょうたん」で つながりのある地域づくり。

生きがいを感じる地域社会をつくるために…。
福祉関係の学びを活かしたプログラムに全力投球。



No. 14



▲「ひょうたん」の皆さんと地域の子どもたち合同でのレクリエーション。

福祉の視点を活かしたレクリエーションを企画。

NBU経営経済学部経営経済学科「こども・福祉マネジメントコース」。学生たちは、大学内外を問わず、子育てから高齢者の問題まで、幅広い視野から福祉のあり方を学ぶことや地域共生のために必要となる知識・スキル・マネジメント力を養うことで、つながりある地域社会の実現に貢献できる専門職を目指している。その取り組みのひとつが、豊後大野市千歳地区にある、市民交流の場である楽らく広場「ひょうたん」での活動サポート。「ちょっと寄り道…ここからだが軽くなる場所」を目指し、地域住民が集まって一緒に体操をしたり、お茶を飲んだり、レクリエーションなどを行っていた。しかし、参加者減少に対する不安解消や、地域のつながりが生まれる活動内容の検討などの課題に直面していた。そこで、こども・福祉マネジメントコースの学生メンバーによる継続的サポート活動が



▲「ひょうたん」1周年ではお面をつけた踊りで会場は笑い声につつまれた。

スタート。まずは、週替わりで行われるレクリエーション活動を学生が主体となり企画・立案することで、楽らく広場「ひょうたん」を地域づくりの拠点として活性化していくチャレンジが始まった…。



▲牛乳パックを使って、参加者の皆さんと一緒に小物入れ作り。

失敗や挫折から学んだ自分でやることの大切さ。

メンバー全員で考えたレクリエーションをはじめ地域の方に届けた日。学生らの表情に笑顔はなかった。「ゲームのルールが分かりにくい」、「司会をする学生の声小さい」、「視力が低下している人が楽しめない」など、参加者からも運営スタッフからも厳しい声が寄せられた。レクリエーションを企画するうえで、本当に相手の立場で「楽しむ」ことを考えていただろうか。無難に進行することだけに注力して、雰囲気づくりや参加者とのコミュニケーションをおろそかにしてい

なかつただろうか。大学に戻り、もう一度参加者の視点に立って、ゼロから本気で話し合う。試行錯誤を重ねながら、毎月1回、レクリエーションのために「ひょうたん」に通い続ける学生たち。やがて一人ひとりに少しずつだが確実に変化が見え始める。ゲームを始める前に、おじいちゃん、おばあちゃんにリラックスしてもらうために世間話をしたり、膝をついて相手の目を見てコミュニケーションをとる。他人まかせではなく、自分もやらないといけないという意識が芽生えたことで、大きな声で人前でうまく説明ができるようになり、スムーズに進行もできるようになってきた。

一年後、参加者へのアンケートでは、「話したり、笑うことでからだ軽くなる感じがする」、「若いパワーをもらえるから、大学生が来る日が楽しみ」といった嬉しい声をいただいた。活動当初は、消極的で、誘われてやっているという感じだった参加者が全員、積極的にレクリエーションを楽しんでいる。大きな変化と手応えをメンバーは実感していた。



▲毎回、イベント終了後すぐに行っている学生たちの反省会。その日の反省点が次回に活かされる。

つながりが生まれ、想いを寄せる。福祉の視点で取り組む地域共生。

豊後大野市千歳地区で地元の皆さんとの交流を通じた地域づくり。

千歳地区の交流活動の拠点、楽らく広場「ひょうたん」。しかし、高齢化が進む中、どのようにして参加者を増やし、皆さんに生きがいや地域の絆を感じてもらえる活動を行うのが課題となっていた。そこで、NBU経営経済学科の「こども・福祉マネジメントコース」のメンバーが福祉関係の学びを活かした企画に取り組むことを決意する…。

学生だからできる、世代間交流の橋渡し。

定期的な訪問を続ける中で、地域づくりのために必要な課題も明確化する。現在、参加者は高齢者の方が多いが、将来的には世代を超えたつながりづくりの支援が必要ではないかと考え、世代間交流の機会を検討。学童保育と合同で開催した花見大会では、孫のような子どもたちと一緒に楽しく高齢者の皆さんの笑顔が弾けた。元気よく走り回る子どもたちと、ともしれば自分の話に夢中になりすぎるシニア世代の仲を、中間世代の学生がバランス良く取り持つ姿が印象的だった。また、当日、イベントに参加できない人とのつながりを支援するために、モノを介した絆づくりを実践。世代間交流においては、幼稚園児にメッセージ入りの人形をプレゼントして、保護者にもそれを見てもらうことで、地域づくりの大切さを理解してもらえるようにした。



▲コツのいるゲームに参加者の皆さんも大盛り上がり。



▲クリスマス会には地元の幼稚園生も参加し、笑顔でいっぱい。



▲イベントの成功に向けて、事前の準備もしっかり行う学生たち。

参加者との一体感が、地域を元気に変える。

「ひょうたん」のサポート活動も2年目を迎え、参加者の要望やニーズをより把握したイベントの企画に取り組む学生たち。学生が考えたアイデアだけではなく、参加者自身がやってみたいことをカタチにすること



▲細かい作業では学生もサポート。

で、参加者と学生との一体感が生まれている。参加者の中には、レクリエーションで紹介したモノづくりを自宅でも行う方もおり、それを誰かにプレゼントすることで、誰かのために役に立っているという社会的役割の創出や、本人の生きがいに繋がっている。また、彼らの活動は、大分県内の地域へも広がりつつある。さらに、学生企画の「手づくりけん玉づくり」が新聞などのメディアを通して紹介されるなど、「ひょうたん」でのさまざまな取り組みは、県内の小規模地域のいきいきサロンなどへの広がりを見せている。

地域住民と大学が協働して何ができるのかを考え、実践する。そこから地域のつながりが生まれ、住民が主体となって地域に想いを寄せた活動が続いてゆくその日まで…。学生がサポートできることはまだまだたくさんあるようだ。



▲コミュニケーションを通して、学生と参加者の距離も自然と近くなった。

学生たちの活躍は、NBUのCOC特設サイトをチェック！

nbu coc

検索

キラリびと

「おおいた、つくりびと」で活躍する学生、
教職員、地域の皆さんにインタビュー。

14



経営経済学部 経営経済学科4年
こども・福祉マネジメントコース

藤内 健人

Q. 楽しく広場「ひょうたん」のプロジェクトに参加したきっかけは？

A. 実習を通して、人とつながる喜びを体験したいと思いました。自分が祖父母を早くに亡くしたこともあり高齢者の皆さんと自然に触れ合えて嬉しかったです。初めはおじいちゃんおばあちゃんのところへ遊びに行く感覚で参加していましたが、次第に学習プログラムの一環という意識が芽生え、活動の中で発生した課題や改善点をメンバー間で共有しながら、議論を重ねることでより良い提案ができるようになったと感じています。

Q. 現地での活動を振り返って、印象に残っていることは？

A. 市外からやってきて、緊張している自分たちを、昔からの知り合いのように迎えていただき、本当に嬉しかったです。高齢者の皆さんの

恋バナもたくさんお話いただき、皆さんいつまでもお若いなぁと(笑)。学生主体にレクリエーションを企画したのですが、最初はこちらの不手際でご迷惑をおかけすることもありましたが、皆さんの温かい笑顔に助けられました。すべての体験が福祉の道へ進む自分の後押しをしてくれたと感謝しています。

and more...



PICK UP! COCプロジェクト

2017.3.17 「中判田駅の未来計画 ～斬新なアイデアが、未来をつくる」

自由な発想で描いた未来
“日本一の癒し駅”

「中判田駅周辺のまちづくりについて、学生視点での意見が欲しい。」そう言われて、気付けば4年が経っていた。何度足を運んだらう。どれだけの人と意見を交わしたらう。4年分の「思い」を、カタチにする時がやってきた。テーマは、“日本一の癒し駅”。古くなった駅舎の周りには、花畑や桜並木を散りばめて、季節の移ろいを演出。ご当地グルメや展望レストランを取り入れれば、いつもの帰り道もきっと楽しいものになるはず。パークプレイスと駅をロープウェイでつなげられれば、街全体がパーッと明るくなる事間違いなし!

「こんな発想があったとは…」

若者の意見に、目を丸くして驚く大人たち。実現できるかどうかは分からない。けれども、4年分の「思い」を確かに伝えられた実感がそこにはあった。

若者が描いた青写真は、やがてカラー写真になり、中判田駅の未来を優しく照らす光になる。



まだまだあります!
大分県内をステージに進行中の
プロジェクトが盛りだくさん。

- 明礬温泉「お地蔵様のおせったい」
- 若者が感じる祭りの醍醐味
- 初夏のエネルギーで育つ“感じる心”

etc...

くわしくはNBUの
COC特設サイト

coc-nbu.jp



文部科学省
地(知)の拠点

NBU日本文理大学

〒870-0397 大分県大分市一木1727
TEL.097-592-1600(代表)
<http://www.nbu.ac.jp>

大学院 工学研究科

工学部

経営経済学部

環境情報学専攻

航空宇宙工学科

情報メディア学科

経営経済学科

航空電子機械工学専攻

機械電気工学科

建築学科